

総合・国際	英首相、10月末のEU離脱断念	4面
スポーツ	小平 揺るがず10度目V	13面
特集	「信州の名工」に13人	27面
社説	経産相の更迭／ハンセン病補償	5面

東信	来年のコメ作付け懸念	
北信	きょうから被災車調査	
中信	日韓高校生交流深める	
東信	高校生イルミ装飾担当	
飯田伊那	豊丘の桃の発泡酒完成	
	地域ニュース28-31面	

2019年(令和元年)
10月26日
土曜日

台風19号 関連記事	
大規模災害復興法を適用	2面
学びの場復旧 課題山積	3面
復旧の人手不足 深刻	6面
洪水泳んだ一茶の句被災	36面
観光への追い風 期待	37面
写真グラフィック	7面にも

台風19号 生活情報 35・地域面



1873年(明治6年)創刊
発行所
信濃毎日新聞社
長野本社 〒380-8546
長野市南町 657番地
電話(026)
受付236-3000編集236-3111
販売236-3310広告236-3333
松本本社 〒390-8585
松本市中央 2丁目20番2号
電話(0263)
代表32-1200 報道32-2830
販売32-2850 広告32-2860
©信濃毎日新聞社2019年

小倉あんも好評!
どら焼山
栗焼あん 小倉あん
品質進化 竹風堂
https://chikufudo.com

天気

最高気温	最低気温	飯山	長野	大町	松本	上田	佐久	諏訪	木曾	伊那	飯田	
6時	12	18	24	27	28	29	27	28	29	27	28	29
6時	12	18	24	27	28	29	27	28	29	27	28	29

5%以上 5%未満
30面に詳しい天気情報

あずさ 28日から運行再開

中央東線 全区間通常ダイヤに

JR東日本は25日、台風19号の影響で1日以降、運休が続いていた中央東線のあずさについて、28日の始発から全線で通常運行を再開すると発表した。指原の始発は26日午前11時に始める。中南信地方が首都圏へのアクセスは不便な状況が続いているが、2週間余りの運休を経て解消されることになる。(関連記事37面)

県内雨水位の上昇警戒

県内は25日、低気圧が本州は、これまでに降った雨で河川配置。千曲川の水位が上がって、複数のポンプ車を置いて、浅川の水が流れ込めずに排水に備えた。同日午後にはあふれる内水氾濫を防ぐため、市防災メールなどで「再び内



被災地通り 金沢へ
台風19号の影響で浸水した長野新幹線車両センター(右)の横を通過する長野発金沢行き北陸新幹線の始発列車「はくたか」。東京-金沢間の全線直通運行が13日ぶりに再開した=25日午前6時15分、長野市赤沼 【記事37面】

東北信の災害ごみ受け入れ 中南信の4団体検討

東北信地方が被災した台風19号で発生した災害ごみについて、中南信地方でごみ処理を担う一部事務組合や広域連合のうち、松塩地区広域施設組合(松本市)、湖国行政事務組合(岡谷市)、北アルプス広域連合(大町市)、穂高広域施設組合(安曇野市)の4団体が受け入れを打診することになる。松塩地区広域施設組合は25日、各団体とも今後、具体

的な調整を進める。県は焼却施設を持つ中南信の広域連合など8団体に災害ごみの受け入れが可能なかどうかを照会。受け入れ可否の情報を被災自治体に提供した。県資源循環推進課は「今後は被災自治体が中南信の団体と協議し、受け入れを打診することになる」としている。松本クリーンセンター(松本市)での受け入れを前向きに検討していると明らかにした。センターは11月5、11日に定例メンテナンスを予定しており、終了後の12月以降、1日最大30、50tの受け入れが可能という。木くずや小型木製家具、布団類などを想定している。上伊那広域連合(伊那市)も照会を受けている。

道路復旧 国が代行

権兵衛トンネルや市道「海野宿橋」

大規模災害復興法を適用

安倍晋三首相は25日の非常号を大規模災害復興法に基づき、那郡南箕輪村の国道361号と東御市道「海野宿橋」の2カ所を含む全国6カ所の自治体災害対策本部会議で、台風19

号を大規模災害復興法に基づき、那郡南箕輪村の国道361号と東御市道「海野宿橋」の2カ所を含む全国6カ所の自治体災害対策本部会議で、台風19

号を大規模災害復興法に基づき、那郡南箕輪村の国道361号と東御市道「海野宿橋」の2カ所を含む全国6カ所の自治体災害対策本部会議で、台風19

管理道路の復旧を、国が直轄事業として代行すると明らかにした。同法適用は2016年の熊本地震以来2例目。

被害規模が大きく高度な技術が必要なため、県や市町村だけでは対応が困難と判断、国の主導により復旧を加速させる。

国土交通省によると、国が地方自治体に代わって復旧工事を行うのは長野県内では2カ所。権兵衛トンネルの入り

口付近では路面が崩落。しなの鉄道の線路をまたぐ海野宿橋は土台が損傷し崩落した。調査や仮復旧を経て、本復旧までの工事を国が行う。と

もに完了時期は未定。同法に基づく権限代行は、通常の災害復旧事業と同様に費用の3分の2を国が負担する。残り

3分の1は地方負担分となるが、国が交付税措置するため実質的な地方負担はほばない見通しという。

台風19号被害対応の県内建設・土木業界

復旧工事人手不足深刻

けいざい 信州発

台風19号による県内被災地の現場で復旧作業に当たる県内の建設・土木関連会社が、厳しい人員態勢での対応を余儀なくされている。この20年余り、公共事業の削減や長期に及んだ不況で業界全体の産業規模が縮小。県によると、各地の復旧工事は年明けごろから本格化する見通しだが、深刻な人手不足や従業員の高齢化という課題を抱える各社は不安を募らせている。

雨が降る中、道路脇の排水溝にたまった泥を取り除く土木会社の従業員。25日、長野市穂保

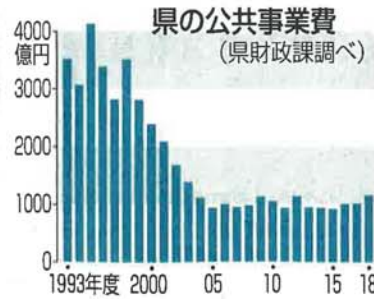


公共事業削減や不況 就業者は減少・高齢化

土木工事や住宅建築を手掛ける松代建設工業(長野市)は、被災直後から長野市松代町で道路上の土砂の運搬や一帯の洗浄作業を市から受託。公共事業削減を受け、20年近くかけて半減させた従業員は現在20人余だ。湯本宜成社長は「人手が足りず、ほとんど休むことなく働きつづめ、以前のような体力はなく、疲弊している」と明かす。同業他社も同様の状況という。県によると、県の公共事業費は1998年の長野冬季五輪の関連事業が集中した95年度の4135億円をピークに減少傾向にあり、2015年度は923億円まで落ち込んだ。近年は防災対策を強化する政府の方針を背景に増加しているが、1千億円を上回る程度で、かつてと比べると依然低水準で推移している。

国勢調査によると、県内の15年時点の建設業就業者数は8万5000人余で、13万2300人余だった95年から4割近く減少。世代別では29歳以下の若手が1割に満たない一方、60歳以上が全体の約3割を占め、高齢化している。県のまとめでは、県内の河川や道路で復旧工事が必要な箇所は各

県の公共事業費 (県財政課調べ)



市町村管轄分も含め約3500カ所に上る。災害以前に県が発注した公共工事の一部は中断しており、災害復旧を最優先に進めていく方針。年明けから本格化する大掛かりな工事は3年程度続く見通しという。

佐久地方を中心に災害工事に当たる小宮山土木(北佐久郡立科町)の小宮山尚明会長も「当面は人練りが一番の課題」と危機感を口にしている。管理職も現場に投入し「総動員で対応に当たる」とするが、過重労働の抑制や休日の確保といった要請にどう対応していくかが切実な課題となる。

長野市篠ノ井にある災害「みもの仮置き場」で重機を使って片付け作業に携わる土木工事の小山田組(長野市)の小山田雄治社長は「災害対応を最優先に、態勢を整えていかないといけない」と強調。「被災者が早く日常生活を取り戻せるよう使命感を持って仕事をしたい」と話している。

東信

千曲川の味 絶やさない

上田のつけば小屋

台風で座敷に水 水槽も流され…

上田市の川魚料理店「鯉西」が千曲川河川敷で営むつけば小屋も台風19号で被災した。西沢徳雄社長(53)が「かつてない」と振り返るほどの増水で座敷が水に漬かり、魚の水槽も流された。のどかな河川敷は工事車両が行き交う現場へと一変したが、「千曲川の味とロマンを絶やすわけにいかない」と来年以降の営業を見据えている。

つけば小屋では毎年4〜10月、アユやウグイ料理などを提供する。特に夏は上田の風物詩として市民や観光客に親しまれている。上小漁業協同組合(上田市)によると、かつて上田から東御にかけてつけば小屋がひしめいたが、その後風雨が強まり、小屋の軒先にある水槽にも水が迫った。従業員らと胸長を着て、水槽のアユ120匹やカジカ20匹などを小分けして移動。「救出」しきれなかった魚もいる。午後7時ごろ、身の危険を感じて退避した。

座敷の上まで泥が入った小屋(左)の前で、取引先と連絡を取り合う西沢徳雄さん



翌日。約100人を収容できる座敷に泥が上がり、厨房にも入り込んでいた。竹編みの屋根はめくれ、小屋の骨組みも一部曲がった。被害額はざっと500万円。20日まで予定した営業を打ち切り、今は片付けに追われる。

義父(故人)が始めた鯉西に18歳で入社し35年。「今回ほどひどい増水は初めて」。それでも今回、外来魚として有害視されるブラックバスが流される「といった「プラス効果もあるかもしれない」と前を向く。「多くのお客に楽しんでもらえるよう千曲川とまた踏ん張る」と話した。

小海一野辺山間 運休続く

復旧工事中の小海線 観光にも影響



土台が崩落したJR小海線松原湖駅近くの線路=13日、JR東日本長野支社提供

台風19号により被災して不通となっているJR小海線の小海(小海町)―野辺山(南牧村)間で復旧作業が続いている。JR東日本長野支社によると25日現在、同区間24.9キロで工事中なのは1カ所。順調に進めば11月上旬に全線が開通する見通しだ。一方、長引く運休により沿線自治体の観光にも影響が出ている。



復旧現場へ運ぶ砂利の積み込み作業=25日午後1時21分、松原湖駅

復旧作業が続いている地点は松原湖駅(小海町)の南約300メートルの千曲川沿い。同支社によると、増水した川の流れて線路下の土台が緩み、崩れたとみられる。25日は同駅の観光にも影響が出ている。復旧作業が続いている地点は松原湖駅(小海町)の南約300メートルの千曲川沿い。同支社によると、増水した川の流れて線路下の土台が緩み、崩れたとみられる。25日は同駅の観光にも影響が出ている。

から現場へ砂利を運び、補強した土台の上に敷いていた。小海線の観光列車「HIGRAIL(ハイレール)1375」も運転を見合わせている。野辺山駅前の野辺山観光案内所によると、例年この時期は見頃となった紅葉を楽しまうと小海線で訪れる観光客でにぎわうが、案内所を訪れる人は数えるほど。周辺を散策するためのレンタル自転車の利用もほとんどないという。「悪天候も重なり、駅周辺は閑散としている。紅葉の見頃は終わる前に復旧してほしい」としている。

